

施設だより

平成会グループの各施設からのお便りをお届けします！



介護老人福祉施設 福寿苑

伊那谷の風を感じる静かで緑豊かな環境。
ユニット型ならではの距離感で、良い関係づくり。



のどかな伊那谷の風景に 季節を感じる毎日

交通アクセス良好な立地ながら、季節ごとに移り変わる山の景色や田畑の変化などを、施設のあちこちから眺めることができます。中庭には草花、館内には観葉植物がたっぷり飾られ、利用者様の心をほぐします。

全室個室・ユニット型の 一般入所サービス

10名ずつの各ユニットごと決まった職員が担当するため、利用者様やご家族との関係性も深めやすい利点があります。イベントや室内装飾などもユニット単位で考えて行うため、ユニットごとに個性があります。



住所 上伊那郡辰野町
大字伊那富9501-1
開設 2014年 8月
定員 100名



理学療法士より

病院勤務から転職し、リハビリなどを担当しています。ご本人が持つ力をできるだけ生かした生活を目指して、多職種で力を合わせています。



はらみし 孕石 祐也さん



利用者様の生活リズムを 尊重した好バランス

個室でプライベートな時間・空間は保ちつつ、リビングに出ればほかの方と関われる、バランスのいい生活環境です。利用者様それぞれのペースに合わせた生活パターンを維持するよう、職員全員で努めています。

ほっと
NEWS

介護老人保健施設 掬水

諏訪市

近隣施設とも連携して 高める防災への意識

9月29日、大雨時の災害対応合同訓練を実施しました。掬水は16年前に豪雨による浸水被害に見舞われ、当時の経験や教訓を災害対応の強化につなげています。職員が土のう積みを経験したり、近隣施設から搬入した機材の設営などを訓練しました。施設間での連携と職員の防災意識の高揚を図り、より一層安心・安全な施設を目指します。



お知らせ

平成会スタッフ募集中！



YouTube
配信中！



紙面のご感想は
こちらまで！

編集後記

自慢のこんだてに「鯉の旨煮」が紹介されました。柔らかく煮込まれた鯉がとてもおいしそうです。私の実家の、秋祭りのごちそうのひとつに、簡切りにした鯉を味噌で煮込んだ「鯉こく」があります。祖母や母が作ってくれた思い出の料理です。鯉は栄養価も高く滋養強壮にもよいと言われています。体調を崩しがちな季節の変わり目にはぴったりです。体の中から元気になれる鯉を、久しぶりに食べたいなあ。



なかはら



社会福祉法人 平成会

介護はこころ

真心と幸せ、そして心の豊かさを感じられる生活を送っていただけるよう、今日一日、その全てに一期一会の精神で臨み、「共に歩む」の法人理念を実践してまいります。



介護のいまを知り、みらいを創る

平成会通信

VOL.07

2022
秋

発行：社会福祉法人 平成会 〒399-6461 長野県諏訪市赤賀1298-92 TEL 0263-51-6610 FAX 0263-53-5828 <http://www.heisei-kai.jp/>

やさしさが伝わる
新しいケアの世界へ

特集

平成会のケアは今“ユマニチュード”へ
～ 6施設認証取得をめざして ～

表紙／介護老人福祉施設 福寿苑
介護福祉士 田村 陽平

平成会のケアは今 “ユマニチュード”へ

～ 6施設認証取得をめざして ～

平成会では認知症ケア技法「ユマニチュード」の導入を全施設で進めています。そのうち6施設では認証取得を目指して研修や会議を重ねています。4日間の日程で行われた「ユマニチュード実践者育成4日間研修」をレポートします。ユマニチュードについて、詳しくは「日本ユマニチュード学会」ウェブサイトをごらんください。

<https://jhuma.org/>

ユマニチュード実践者育成 4日間研修(概要)

1日目	●ユマニチュードについての講義 ●4つの柱「見る」「話す」「触れる」「立つ」の講義 → 各演習
2日目	●グループ別ベッドサイド実習 → 振り返り ●講義 ●演習
3日目	●「5つのステップ」の講義 → 演習 ●グループ別ベッドサイド実習 → 振り返り ●演習
4日目	●グループ別ベッドサイド実習 → 振り返り ●講義 ●3日間の映像振り返り ●4日間のまとめ

この日を
取材!

実習後は全員が集まり記録動画で振り返り

どんな困りごとがある利用者様で、ユマニチュードの視点で何を意識したか。どんな変化があり、そこからの学びと、翌日にどうつなげるかをグループワークで振り返り、発表を行いました。「目線が合うようになった」「表情が変わった」など、実習2日目にして感じた変化が各グループから

次々と述べられました。介助する側のポジショニングの大切さ、本人のできることを引き出す可能性に気付いたという声もありました。講師の先生からは「ご本人の気持ちを言葉で引き出せたのは、いい人間関係を1日目から築けていたから」などの感想がありました。

利用者様にユマニチュードを実践

福寿苑(辰野町)とわかな(箕輪町)を移動しながら行った今回の研修には、両施設とグループホームの職員計12名が参加。この日は、4グループに分かれ、インストラクターの指導を受けながら各グループ3名の利用者様にユマニチュードを実践する実習からスタート。3日間継続して、同じ利用者様に対して実践するのがこの研修のポイントとなります。

いつもは自分でズボンを戻してしまう方の排泄介助に職員2名が連携。腰にタオルを掛けたり、常に声掛けをすることで、落ち着いて介助を終えられました。

片まひのある方が立つ介助。縮こまって硬くなっている部分を探り、さすってほぐします。動かす場所をご本人に意識してもらい声掛けをしました。



入浴介助では、洗髪時の顔濡れを防ぐ工夫などについてアドバイスをもらいました。タオルをお渡しすると、ご自分で腕を洗う場面もありました。



研修受講者

高倉 郁実さん
福寿苑 勤務

ふだんやっている介護との違いがわからない部分もあり、それを理解して自信につなげたいと思い、参加しました。実際にいつも接している利用者様は、ユマニチュードに関わった時に反応の変化がありました。また、グループワークなので、ほかの職員の動きをすることで、うまくいく例とそうでない例がわかりやすいです。今回は予想以上に楽しい学びだったので、さらに深く知りたいと思っています。

ユマニチュードの疑問だった点を「なるほど」と思い始めたところ。ふだん利用者様とじっくり話すことが少なく、深く話を聞いてみたら「自分はもっとやりたい」というお気持ちだったと知りました。よかれと思って、今までやり過ぎていたんですね。同じ利用者様と連日しっかり関わる中で、たった1日でも変化があり、翌日が楽しみです。研修後も続ければ大きな変化になるのではと期待しています。



研修受講者

山口 雪絵さん
わかな 勤務

INTERVIEW

研修3日目を終えて

講義を聴いた後、すぐベッドサイドで実践することが今回の研修のポイントです。チームで同じ経験をするのも、ユマニチュードを続ける意欲につながります。研修中、同じ利用者様に継続してケアするのは、徐々に相手を知ることで、研修後もその方にユマニチュードを取り入れていただきたい意味もあります。職員の皆さん、やはり最初は恐る恐るの実践ですが、



利用者様に笑顔が出たりするとどんどん積極的になりますね。これは変えてみようとか、このままでいいんだとか、最終日にはポジティブな気持ちが何か一つでも残れば。そして、職員の方それぞれの個性を発揮した介護を目指していただきたいです。

認定インストラクター 林 紗美(さよ)さん

認証に向けて 6施設が切磋琢磨!



9月12日の「第3回ユマニチュード認証共有会議」では、認証に向けた進捗状況の発表と、疑問点の共有、課題解決の相談などを行いました。疑問が解決につながったり、認証に向けた基本姿勢・行動の確認ができたりと、有意義なミーティングとなりました。ユマニチュードに取り組む目的や、積極的な取り組みの工夫・課題を共有しつつ、ユマニチュードを理解・実践できる仲間を増やしたいという思いを新たにしました。

平成会ユマニチュードの
“今”を伝えるウェブサイトが
10月21日に公開!

各施設から、取り組みの様子を発信していきます。
ぜひごらんください!

<http://www.heisei-kai.jp/humanitude/>

humanitude

※HUMANITUDEおよびユマニチュードの名称およびそのロゴは、日本およびその他の国における仏国SAS Humanitude社の商標または登録商標です。

ユマニチュード
×
平成会



そもそも「ユマニチュード」とは?

最期の日まで人間らしくあり続けることを支えるケアを行う人は、「私はあなたのことを大切に思っています」というメッセージを出し続けることが重要です。そのメッセージを理解できるように伝えるための具体的な技術と、必要な考え方で成り立つのがユマニチュードです。技術だけではなく、哲学を理解することが大切です。

平成会がユマニチュードを導入する理由

「あなたのことが大切」というメッセージを理解してもらい、いい関係を結ぶことが大切というユマニチュードの考え方は、平成会の「介護はこころ」に通じます。また、もう一つの平成会の理念「共に歩む」は、利用者様だけでなく「職員同士と共に歩む」。資質などに関係なく、誰でも同じメソッドで実践できるユマニチュードは、「うまくいかないのは自分のせいでは」と悩む職員を生まないための選択でもあったと考えます。

一歩先を行く6施設

ユマニチュード定着のため、先立って励んでいるのが次の6施設です。「ユマニチュード認証制度」認定事業所を目指しています。

- 介護老人福祉施設(3施設) さわび/松風/福寿苑
- 介護老人保健施設(2施設) 掬水/わかな
- 有料老人ホーム(1施設) せせらぎ



平成会タイムス

1

「痛い!つらい!」が軽くなる介護へ

平成会が取り組む、介助者の“腰痛予防”



厚生労働省の報告によると、社会福祉施設における労働災害については、「介助作業での原因」が84%で、その内容として「ベッド上や移乗*介助による原因」が52%を占めるなど、「介護現場における腰痛」は長い間深刻な問題となっています。

平成会では、職員の腰痛予防への取り組み強化が必要であると考え、9月7日(水)、職員の腰痛予防をテーマにした研修会を行いました。日本車椅子シーティング財団代表の木之瀬隆先生を講師にお迎えし、株式会社フロンティア様のご協力により、最新機器として「フレックスボード」と「固定式リフト」を活用した、ベッド～車椅子の新しい移乗方法の学びを深めました。

参加した職員全員が実践形式で体験することで、職員側の負担軽減と、利用者様側の安心感、安全性を感じられました。すべての職員がいつまでも健康で元気に働ける職場づくりを、法人として今後も目指していきます。

※移乗：ベッドから車椅子へ、また車椅子から食事用のいす、便座や浴槽などへ乗り移ること。「トランス(トランスファー)」とも言われる。



..... 研 修 を 受 け て

リフトは扱い方をマスターすれば、職員1人で移乗介助できるようになるのでいいですね。フレックスボードは2人での介助ではありますが、「持ち上げる」動作がないため、腰への負担が少なくなるのではないのでしょうか。



上條 真一さん
(せせらぎ 勤務)

リフトを使用すると、職員も利用者様にとっても、安全・安心な介助ができるようになります。今後、介護現場で積極的に導入されるといいと思います。フレックスボードは、対象となる利用者様の移乗の際に使用していきます。



藤村 雪乃さん
(せせらぎ 勤務)

ご存じですか？

楽な移乗をかなえる便利な器具があります！

フレックスボード

座った姿勢が安定しない方を、寝た姿勢のまま、横に滑らせて移乗できるボード。フレキシブルに曲がる形状で、要介助者の姿勢にもフィットします。持ち上げたり抱え上げたりせずに移乗できるので、介護者負担軽減と腰痛対策になります。



据置式 リコリフト フリースタンド LR200

ベッドをまたぐように据え置くだけで使えるリフト。工事なしで設置でき、超低床ベッドや床に敷いた布団など、寝具の種類を選ばず使用できます。垂直に昇降するので、初めてリフトを使う方にも扱いやすくなっています。



2

主任・リーダー級職員が参加

福祉職員のリーダー論を学びました

9月26日(月)、「どうすればセルフリーダーシップを発揮するリーダーになれるか」をテーマに、リーダーシップ養成研修を行いました。講師は、日本女子大学人間社会学部社会福祉学科教授の久田則夫先生。福祉・介護の現場を知り尽くしたスペシャリスト、久田先生の研修は8年ぶりです。福祉の職場に必要なリーダーの極意を学ぼうと、オンライン研修に60名以上の職員が参加しました。

複雑多様化するこれからの社会においては、セルフリーダーシップが求められると言われます。セルフリーダーシップとは、自分を正しい方向に導くスキルを磨くことで、他者を的確に導けるリーダーになれるという考え方です。平成会では、先進的なリーダーシップ論を学び、職員一人ひとりのスキルアップを図ることで、さらなるチーム力アップを目指しています。

参加した職員からは「人を育てる責任を忘れずに、みんながよい環境で仕事に取り組めるよう、学んだことを実践したい」「自分自身が心得ていたものが久田先生の教えの中にあり、自信を持てた」といった前向きな声が聞かれました。



講師

日本女子大学人間社会学部
社会福祉学科教授
久田 則夫先生



ようこそ！

平成会 研修センターです！

平成会には、各種資格取得や技術習得を目指す人を応援する「平成会研修センター」があります。今回はセンターからの“お知らせ”です。



公開予定は
11月末ごろ！
新しいロゴマークも
お披露目します！

番外編 研修センターのホームページ制作中！

“もっと介護のプロになる”をミッションとする平成会研修センターは、法人内の介護サービス力の向上のため、スタッフの基礎技術と先端技術の習得を支援しています。また、介護の専門技術を必要としている方が地域にも多くいらっしゃるから、介護の最新事情をテーマにした市民公開講座や、一般向けの介護教室を開いています。

地域全体の福祉向上に貢献し続けるため、このたび、平成会研修センターとして独立したホームページを立ち上げるになりました。各種研修の予定などをお知らせしたり、一般参加できる研修の申し込みをウェブ経由で受け付けるなど、より開かれた研修センターの“窓口”となります。どうぞご活用ください！



※画面は制作中のものです

2022.AUTUMN

PHOTO DIARY

フォトダイアリー

岡谷市

グループホーム 風薫



季節を感じるこの瞬間を大切に…

お彼岸恒例のおはぎ作り。「うちのはもっと大きいよ」「おいしいね」と話に花が咲きます。ふと見上げた空には赤とんぼ。秋ですね。



松本市

デイサービスセンター なごみ



初の試み! たこ焼き器で生地作り

亀は万年にあやかり、敬老会のおやつは手作り亀鈴カステラに挑戦。大成功! 「かわいい〜」「おいしい〜」と皆さま大喜びでした。



塩尻市

ケアハウス なごみ



利用者様も職員も一息つける空間づくりを

なごみの素敵な座敷には、足を伸ばしてゆっくりと庭を眺めながら季節の移ろいを感じられる空間があります。入居者様にも職員からも好評です。

塩尻市

通所介護事業所 無暦日庵



無暦の太陽

恒例の夏祭り。コロナ禍ですが、職員が「真赤な太陽」をまさに太陽になって踊りました。利用者様も盛り上がりアンコールをいただきました。

岡谷市

温泉デイサービス 湯けむり



敬老の日“不苦勞”のプレゼント

8月からレクリエーションの時間に制作してきた、松ぼっくりのかわいいフクロウ。ラッピングし、メッセージを付けてお渡ししました。皆さん喜んでくださいました。

注目のニュース!

食事を豊かに彩る“器”を厳選



平成会では、利用者様の心を豊かにする食事の提供を大切にしています。器や盛り付けも、おいしい食事にとって大切な要素であると考え、陶器や漆器の器に美しく盛り付けられた献立作りを実践しています。

当法人には、お膳にした際の器の統一感を大切に考えた登録食器があります。登録食器の補充、また新たに購入する食器について、展示された器を実際に手に取って検討する食器購入会を、9月27日に湯けむり（岡谷市）にて開催しました。コロナ禍で2年ぶりの開催とあって、初めて参加する職員もいました。

集まった10施設の管理栄養士は色とりどりの食器を手に取り、「大きさや手触りなど、実際の食器が見られて、とても参考になった」「使用している食器について、他の施設の管理栄養士と情報交換の場が持てて、とてもよかった」との声が聞かれました。



うちの施設の

自慢のこんだて

vol.07

介護老人保健施設 掬水
（諏訪市）



《 鯉の旨煮 》

鯉料理は、信州ならではの郷土食です。特別な時に食卓を彩る“ハレの料理”として、古くから親しまれています。

利用者様への日ごろの感謝を「食」を通じてお伝えする敬老の日。掬水では「ご長寿祝い御膳」に、喜んでいただけるメニューや旬の食材を取り入れています。毎年登場するのが「鯉の旨煮」。安全においしく食べていただきたいとの思いで、骨まで食べられるレシピで調理しています（材料・作り方は部外秘!）。「安心の先においしさがある」をモットーに、懐かしい鯉の旨煮を形のまま提供することにこだわり、目でも楽しめるおいしさを追求しています。

この日は鯉の旨煮の感想を真っ先に伝えてくださる利用者様が多く、「おいしく煮てくれたね」「鯉の骨は危ないって言うけど、これは軟らかくていいね」「珍しいものを出してくれてありがとう」など、うれしいお言葉をいただいています。

つくったひと

管理栄養士

タカシマ ミユキ
高島 美幸さん

